

# 種子島遊学のススメ

## ～若者の誘致から利益まで～

農学部 農業生産科学科 3年 久保憲祐

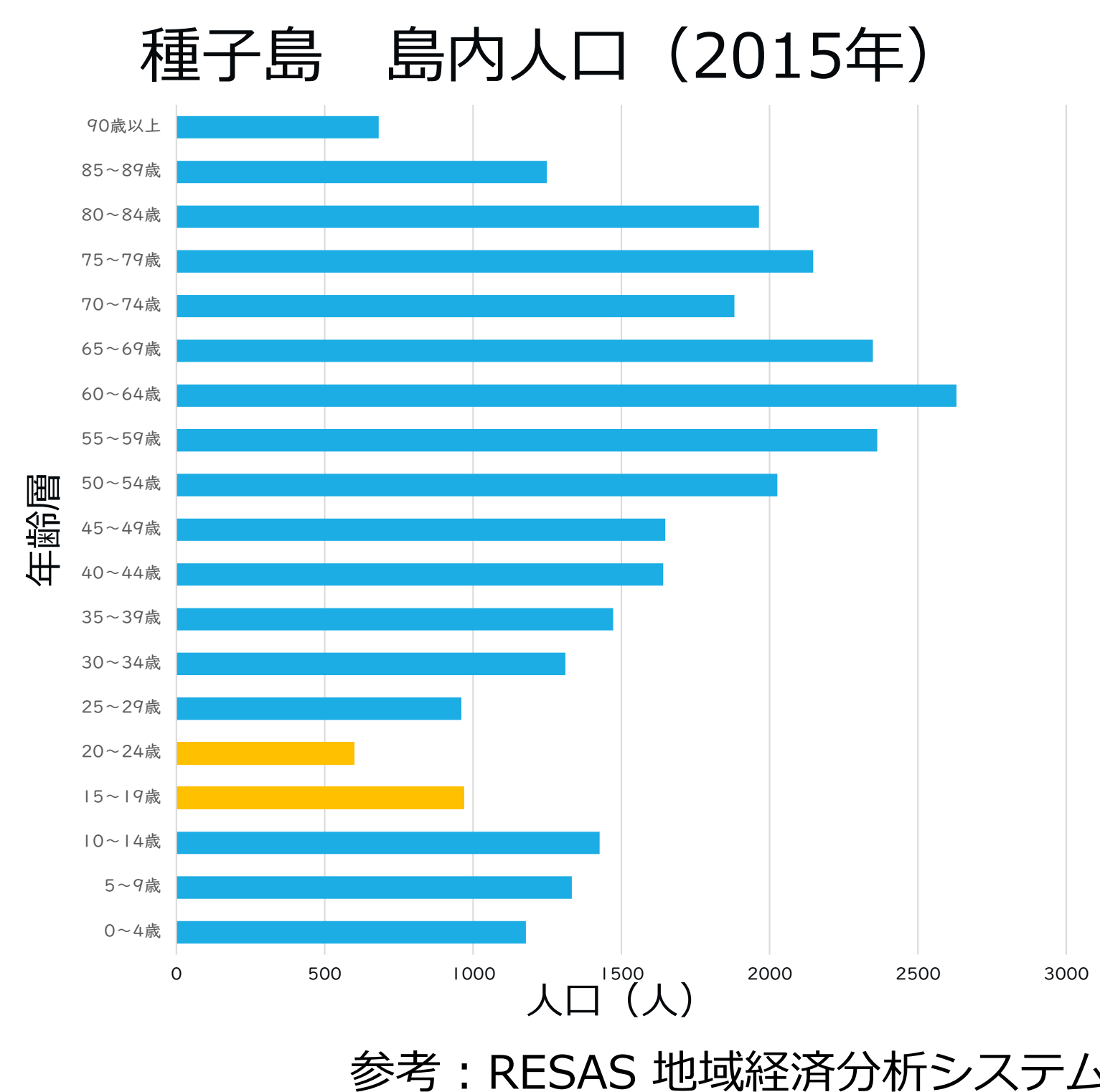
### 種子島の現状

#### ● 島内人口

▶ 種子島で一番少ない年齢層は、20～24歳  
進学や就職により、島内を離れる人が多い

▶ 高校生が属している15～19歳の年齢層も、  
他と比較すると低い

▶ 大学生、高校生を取り入れる必要性



#### ● 山村留学制度

▶ 種子島しおさい留学、南種子町宇宙留学制度が存在  
里親留学、家族留学、親戚留学があり、対象が小学生から中学生。  
期間は1年となっている。

▶ 2017年度では、鹿児島県の山村留学受け入れ人数が最多。  
種子島では、小学校16校が実施しており、他の自治体よりも多い。  
**鹿児島県は山村留学の先進県であり更なる発展も見込める！**

#### 問い

山村留学制度を生かした高校生・大学生の誘致はできないか？  
誘致後、有益な環境を生み出すことができないか？

### 地域みらい留学・山村留学

#### 事例1. 古仁屋高校

▶ 古仁屋高校では、地域みらい留学が行われている。

✓地域みらい留学とは？

都道府県の枠を超えて、地域学校に入学する制度  
現在は77の高校で受け入れ行っている

(12月9日現在)

▶ 寮が設けられ、Instagramを用いた  
発信も行われている (右写真2022年1月5日現在)

古仁屋高校  
寮生によるInstagram



寮での生活以外にも、漁業体験や島内のイベント  
参加の様子も見られる

✓学校内だけでなく地域との関りも盛ん！

#### 種子島高校では…

普通科だけでなく、生物生産科、電気科が設置。特に、生物生産の植物バイオコースでは、安納芋のバイオ苗の作成を行っており、島内の約50%をシェアしている

培養中の安納芋バイオ苗  
植物バイオコース受講生  
によって作成されている



#### ▶ メリット

種子島高校では特有でバラエティー  
豊かな教育を行っている

**そこでの学びを生かした、今後の進学や就職の提供ができるのでは？  
違った文化・自然や人との関わりができるのではないか？**

#### ▶ デメリット

娯楽の少なさにより、休日の生活が制限されてしまうことや  
親元を離れ、里親や寮での生活を余儀なくされる  
人生一度きりの生徒生活。気軽に参加することが難しい

### サテライトキャンパス化

#### 事例2. アイランドキャンパス事業

▶ サテライトキャンパスの設立を図る

✓サテライトキャンパスとは？

大学などの教育機関が、本部とは別の地域に設ける移設  
しかし、大半が都市部の駅近くに設けることが多い。

▶ 大学に離島での学外活動を行ってもらう事業は既存！

▶ 鹿児島県離島振興協会による「アイランドキャンパス事業」が存在

大学側に離島を学外活動の場として提供し、自然や文化を理解を深めてもらう  
ことや、離島振興に関する活動を行ってもらう事業。

種子島でも、スポーツツーリズムなどの推進や、  
安納芋の調査が行われていた。

短期間のものが多く、持続的なものは少ない！

#### サテライトキャンパス化に向けた意義

▶ 種子島はまだ研究されていないことが多い！

▶ 安納芋の歴史や基腐病の対策、海外から流入してきた物や文化 etc.

**短期的ではなく、長期的に地域に寄り添い続けられる仕組みを！**

**鹿大のスローガン「南北600kmこれが私たちのキャンパス」のように地の利という強みを最大限に発揮できるのでは？**

▶ 放棄地問題

▶ 人口減少による耕作放棄地や空き家の増加

▶ 平成26年度には357棟の空家があり、その3分の1が入居可能な状態  
移住対応やリフォーム補助なども行っている。

▶ 耕作放棄地は経営体の減少により増加。今までは企業の参入や、雇用増加  
等の規模の拡大で対処。

**場合によっては無償で受け取り可能**

**新たな拠点として活用可能！**

#### ▶ メリット

✓ 学生だけでなく、市民も利用可能なオープンな場所としても活用  
市民交流・解放教室・イベントの開催等、新たな拠点としての役割

✓ オンライン授業を活用し、本学の履修も可能

コロナ禍により経験した遠隔授業を生かす

✓ 実践・主体的な授業のできる場としての役割

様々な学部で学んだ知識を、地域での実践や還元として生かす  
主体的な授業とし、成果を単位化することも可能

#### ▶ デメリット

✓ 大学

▶ 地域の要望に応えすぎると自主性を失う

▶ 教員や事務の雇用が増え、管理等の負担も増える

✓ 地域

▶ 地域に必要な交流を押し付けられる可能性がある

▶ 地域の人も利用可能な施設にする必要がある

**それぞれのデメリットが存在するが、両者間の関係性が良好じゃなかった場合、どちらか一方的な取り組みになってしまう恐れがある**

### 結論

▶ 現存の山村留学制度をもとに、地域みらい留学やサテライトキャンパス化を図ることができるのでは  
損得あるが、既存の制度があれば地域住民の理解を得るのが容易だと考えられる

▶ 特有のある高校や抱えている課題から、生徒・学生の流入に魅力的な環境である

新たな環境地で個人の成長と、地方の活性化が見込まれる

**今後は高校生・大学生への魅力的な環境の提供や、高校や大学と地域の関係を構築し互いの課題を共有することで、より良い若者の誘致と利益創出ができるのでは？**